

YMCA健康福祉専門学校

健康福祉ニュース

What's New!

・福祉の仕事 がんばる卒業生紹介

豊かさの基準

きっと誰でも豊かな生活をしたいと思いますが、豊かな生活への期待は、人それぞれですね。たとえば、住む家があって、着る洋服があって、温かい食事がある。仕事があり、収入があり、家族がいる。あなたにとって「豊かな生活」ですか？まだ足りないでしょうか？

では、何でもほしいものが手にはいり、食べたいものがいつでも好きなだけ食べられて、人よりもたくさんのお金が手にはいる。どうでしょう？こんな生活ができれば「豊かだ」と自覚する人も少なくないかもしれませんね。

みなさんにとって「豊かな生活」はどんなイメージでしょうか？



さて、「若者の介護職離れ」は社会問題にもなっています。その裏側には、「ワーキングプア」という問題、つまり働いても収入が少なく、家族が養えないのではないかと不安があると聞きます。また、今の先生は子どもに対して、自らの教師としての人格をもって向かいあうことが少なくなった、自らの生活を優先するようになった「学校の先生のサラリーマン化」という話も耳にします。教職にしても、介護職にしても、いのちと向き合う仕事。子どものいのちを育む、そしてお年寄りのいのちに寄り添うという、尊く大切な仕事です。

かつて、医師や教員などの職業が聖職といわれ、地域・社会から尊敬されていた時代がありました。もちろん、今でもそう呼ぶに値する専門職はたくさんいます。誰かのために働くことが自分自身の幸せと感ずることができる。個人の利益だけを求めるのではなく、他の誰かのために懸命になれる。聖職と呼ばれる職業を担う人たちには、この想いが求められているのかもしれない。自分が満足だけでなく、周囲の幸せのために自分が働くことができる喜びこそ、今の時代に大切にしてほしいと強く願います。

「豊かさ」にはさまざまな要素がありますから、何か一つだけが叶っても自分は豊かではないと思うかもしれません。しかし一つだけでも叶ったことに感謝できる自分になりたいですね。ここに「心の豊かさ」や「幸せ」があるのではないのでしょうか。

山本有三の「路傍の石」で、勉強がよくできたのに家庭の事情で中学に進学できず、奉公へ出ることの決まった主人公の吾一に対して、担任の次野先生が次のように言います。

たった一人しかない自分を、たった一度しかない一生を
ほんとうに生かさなかつたら、
人間生まれてきた甲斐がないじゃないか。

自分自身のいのちを、精一杯生かすこと。仕事を通してお金や名誉、物を得ることだけでない「豊かさ」や「幸せ」が、私はあると思います。

YMCA健康福祉専門学校
校長 小林 一郎



真剣に聞き入る学生たち
ウイルスは中立・公正。愛があっても感染経路があればやってくる。

AIDS LIVE TOUR

毎年この時期、YMCA健康福祉専門学校では「エイズライブツアー」を行います。今年は、高校生のころからエイズボランティアをしている学生から「HIVに感染している人の話を聴いてみよう」という提案があり、かながわレッドリボンプラザの協力で実現しました。1月22日当日は、LAPというHIV感染者、AIDS患者の社会的支援活動を行うNGOの方にお話をうかがいました。HIVを医学的に理解するだけでなく、「HIVとともに生活する」という考えを理解することは、治療が進みエイズ発症までの時間が長くなった現在はとても大切です。学生からは、「感染を知ったときのショックは大きかったこと

と思います。私はそのことを相談されるような、思いやりのある人間になりたい。そんな人が世界中の人全員になったらいいなあ、と思いました。」「よりAIDS、HIVへの関心が高くなりました。自分が思っていたのとは違い、(陽性者の方が)あんなに明るいとは思っていませんでした。これも偏見だと感じました。」などの感想が聴かれました。福祉職をめざす私たちにとって、「誰かに相談をされる人になってほしい」というメッセージは深く心に響きました。「誰かに相談をされる自分」になるために何が必要なのか、これから考えていきたいですね。



石けんできれいに洗った指だと
カンタンにきれいな音が響きます

介護福祉科1年生のグラスハーブ

介護福祉科では「レクリエーション活動援助法」という授業があります。その授業で、グラスハーブの演奏を行いました。グラスハーブとは、大きさや形の違うワイングラス(ゴブレット)に水をいれ、ぬれた指でグラスの縁をこすります。すると摩擦がおき、ガラスと共鳴してとてもきれいな音の出る楽器になるのです。水の量で音階を調節し、合奏することもできます。今回、授業のなかでは「ドレミの歌」と「きらきら星」に挑戦しました。はじめは音を出すことに精一杯でしたが、少しずつ

つ他の人の音も聴けるようになって音が重なりきれいなハーモニーを聞くことができました。この授業は6人ほどの学生が進行役となっており、何週間も前からどうしたら短い時間内に合奏までできるか、授業内での指導方法を考え準備していました。

実際に施設等で演奏を披露するにはもう少し練習が必要ですが、他にはない音色で心和む時間となりました。



淡々と静かにお話しする吉川牧師。体育館での説教は初めてです、とのことでした。

1年間の締めくりに学生礼拝を行いました

1月29日は学年最後のLHRということもあり、全クラス合同で学生礼拝を行いました。今回は、厚木市内の日本聖公会堂厚木ヨハネ協会の吉川智之牧師にお話をいただきました。聖書の言葉のなかから、「できる人とは、仕事を時間通りにきちんとこなせる人。そして『つかえない』と言われてしまう人の立場を理解できる人。そしてその気持ちに共感できる人のこと。将来、福祉の職場で働くみなさんも同じように、弱い人に寄り添える人になってください。」というメッセージをいただき

ました。誰かを頼るだけでなく、誰かに頼られるように、そして誰かに頼ってしまう人の気持ちをわかって上げられる自分でありたいですね。お話では、話題のドラマ「斉藤さん」の一場面などを例にしながら、学生にも身近な話題でわかりやすくお話をいただきました。

学年末を迎え、卒業を迎え社会へ出る学生や実習期間に入る学生、そして進級する学生とそれぞれにとって新しい気づきのキッカケとなったことと思います。

福祉のしごと 卒業生もがんばっています！

「福祉」と聞いて、どんなイメージを持ちますか？

大きな企業での不祥事発覚とか、大変なのに給料が少ない休みが少ないとか、ワーキングプア(働いているのに生活できない)なんていう言葉を耳にすることがあります。両親や学校の先生から「福祉は大変だからやめなさい」といわれる人も少なくない聞いています。そんな社会では「福祉をめざそう!」と思うことはできないのでしょうか…

私たちYMCA健康福祉専門学校には、「誰かの役に立ちたいから」「おじいちゃんおばあちゃんのお世話をしたいから」「子どもが好きだから」と一生懸命に福祉を学んでいる学生がいます。実習やボランティアに行き、お年よりや障がい者、子どもたちから何と比べられない「ありがとう」の気持ちを教えてもらう学生がいます。

福祉の仕事は人とのちと向き合う仕事。もちろん楽な仕事ではありません。でもそこにはお金では買えない、自分自身の成長のチャンスがあります。そして5年後も10年後も、今は「やめなさい」といっている人たちにも絶対に必要とされる仕事です。そんな福祉の現場で、今日も卒業生たちはがんばっています！



谷口みどりさん (介護福祉科卒業・特別養護老人ホーム勤務)

今の職場は、平均勤続年数が約10年ととても働きやすい職場です。わたしたち介護士にとっては職場ですが、ご利用者にとっては生活の場ですから、いつも心がけているのは「思いやり」。誰に対してもどんな状況でも思いやりを持って接するようにしています。将来はご利用者はもちろん、ご家族や職場の方などにも信頼されるような介護士になりたいです。

小林千寿さん (介護福祉科卒業・特別養護老人ホーム勤務)

介護福祉士として働き始めてもうすぐ1年になりますが、ご利用者の日々の変化に対応することやより良いコミュニケーションの方法など、まだまだ学びたいことがたくさんあります。ご利用者からの「ありがとう」という言葉と笑顔が何よりのやりがい。いずれは障がい者施設でも働いてみたいと考えています。



M.Iさん (健康福祉科卒業・救護施設勤務)

救護施設とは身体や精神に障がいがあり、経済的にも日常生活を送ることが困難な方が健康に安心して生活するための施設です。ご利用者を役所からお預かりして生活を支援しています。さまざまな課題を抱えた人たちが、できなかったことができるようになったり、やる気を引き出せたときはとてもやりがいを感じます。ただ福祉にとって大切なのは押し付けるスタイルではなく、とりあえず受容、そして傾聴、共感。へこみすぎず、頑張りすぎず、自分がどんな気分のときでも相手に対して同じ支援ができるようになることが目標です。



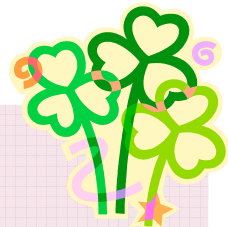
あなたの「心に響く言葉」はどんな言葉ですか？

横浜YMCAでは「思いやり」、「誠実さ」、「責任感」、「尊敬心」の4つの価値を大切なものとして、YMCAに関わるさまざまな人にその価値を伝えていく運動をしています。

毎年、それぞれの価値にあわせて「わたしの心に響く言葉」を募集し、その中から12の言葉を選んで毎月目標として掲げています。そして今回、2008年の「わたしの心に響く言葉」にYMCA健康福祉専門学校の学生2名の言葉が選ばれました。二人とも3月で卒業していきませんがこの言葉を忘れずにがんばってほしいと思います。

「生まれ変わるなら、生きているうちに」
介護福祉科2年 上野恒平さん
人は自分だけで生まれ変われます。

「今のあなたの言葉、世界中に響いているとしたら？」
健康福祉科3年 斉藤高志さん
自分の言葉に責任を持って、自分の言葉が「人を傷つけていないか」をいつも考えていきたいと思っています。



これからのカレッジ・イン(学校見学・体験入学)と入学試験

YMCA健康福祉専門学校では、毎年3月まで入試を行います。

将来のことを決めるのは自分自身です。自分自身で見て、考えて、行動してほしい。

福祉、保育、スポーツに興味のある人、入試に不安のある人は是非カレッジ・インにお越しください。そして将来のこと、資格のこと、お金のこと、何でも相談してください。YMCAと一緒に考えます。

2008年 2月							2008年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	カレッジ・イン 入試							1
入試	4	5	6	7	8	9	2	3	4	5	6	7	入試
10	11	12	13	14	15	16	入試	10	11	12	13	14	カレッジ・イン
17	18	19	20	21	22	カレッジ・イン 入試	16	17	18	19	20	21	22
入試	25	26	27	28	29		23	24	入試	入試	27	28	29
							30	31					

カレッジ・インは各回とも9:30～15:30です

日程・時間について、都合のつかない方はご相談ください



YMCA健康福祉専門学校

福祉スポーツ科
健康福祉科
介護福祉科

〒243-0018

厚木市中町4-16-19

電話 046-223-1441

FAX 046-223-2101

Email: ymkenko@yokohama-ymca.or.jp

HP: <http://www.yokohamaymca.ac.jp/health>



小田急線本厚木駅から徒歩5分
本厚木駅周辺にはミロードをはじめたくさんのお店もあり便利です。有名ラーメン店もありますよ！

ホームページは・・・
<http://www.yokohamaymca.ac.jp/health/>

Realize your dream!

～地域福祉をささえるのはあなたです！～

YMCAではさまざまな活動を通して次のことを学びます。

- 「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」
- 「家族、地域のひとりひとりとして責任があること」
- 「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」
- 「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」
- 「すこやかな心と体を育むこと」

そしてこれらを実現するために、次のことを大切にします。

- 「Caring (思いやり)」「Honesty (誠実さ)」
- 「Responsibility (責任感)」「Respect (尊敬心)」

YMCA健康福祉専門学校では、カリキュラムや学校行事を通じて4つの大切な価値を意識する機会を取り入れています。将来、福祉・保育・スポーツの現場で活躍する学生のみなさんに、他者への思いやりの心を持ち、相手を敬い、自分の行動に責任を持ち、誠実に取り組んでいく専門職になってほしいと願っています。